

R3学校における働き方改革道民の意識に関する調査から

より地域の方々と連携を深め、積極的に改善を進めましょう

道教委では、学校における働き方改革「北海道アクション・プラン（第2期）」を踏まえ、保護者や地域住民の方々の意識を調査し、今後の施策に反映させることを目的に、学校における働き方改革の趣旨や取組等に係るアンケート調査を実施し、この度調査結果をまとめました。

調査結果では、「教員の長時間勤務は問題だ」と答えた割合が73%となった他、「教育活動を効果的に行う、という働き方改革の目的は妥当」との回答が76%となるなど、学校がおかれている現状や取組の方向性について、一定程度理解が進んでいることが明らかとなりました。

各教育委員会、学校においては、このような結果を踏まえ、より一層地域の方々と連携を深め、積極的に改善を進めていくことが重要です。

調査対象：北海道の学校に通う児童・生徒の保護者及び18歳以上の地域住民

調査期間：令和3年11月10日～12月17日 回答数：3,636件

※詳細はこちら：<http://www.dokyo1.pref.hokkaido.lg.jp/hk/ksi/hatarakikatakaikaku.htm>

調査結果のpoint

1 学校における働き方改革の必要性

■教員に関するイメージ	多くの先生方は一生懸命頑張っており、大変そうだ（多くの先生方は忙しく、疲れているようだ）	85%
■教員の勤務実態	教員の長時間勤務は問題だと思う	73%
■学校における働き方改革の目的	教育活動を効果的に行う、という働き方改革の目的は妥当である	76%

→ 学校における働き方改革の必要性や目的について、概ね理解が進んでおり、その認識の下で、より積極的に改善を進めることが重要

2 教育の質の向上

■学校行事など地域等と関わりのある業務の見直し	やむを得ないが、出来るだけ保護者や地域と話し合いながら進めて欲しい	48%
■学校と地域との協働	地域と学校が互いに連携し合うことで、社会全体で子どもたちを育むことにつながる	77%
	子どもたちを地域全体で見守ることが大事	65%

→ 働き方改革を進めて教育の質を向上させるために、より一層地域・保護者への説明や対話を重ね、目的を共有した上で連携を深めていくことが重要

3 教員の成り手不足の解消

■教員志願者の減少理由	時代の変化や、多様な子どもたちの対応など、より高い資質が求められてきている	64%
	社会から求められる責任の重さなどから、教員になることに不安がある	61%
	教員の労働環境が過酷（ブラック）だというイメージが広がっている	60%
■働き方改革に関する意見	・「担任一人でクラスの責任を持つ体制を変え、チームで対応し、責任を分け合うような工夫を」・「一人の担任だけでなく、二人体制で全体を見て欲しい」・「道理に外れるクレームには教員団結して対応を」	

→ 教員の成り手不足の解消のためにも、教員の役割の明確化とともに、時代の変化や多様な課題にチームとして対応する組織や支援体制を築くことが重要